

日本女子大学
雑誌

復刊【第 6 号】
1961 年



我国女医の発展的 総結集と今後の進路

福井繁子



日本女医会もすでに七十年の長い建設的曲折を経て、今や真の活動期を迎え、世界女医会の一員として米、英、独等先進国に互し毫も遜色なきまでの成長を遂げてきましたことは、誠に快心事で皆様と共に御同慶の至りにたえません。本年十一月大阪における総会に徴しましても、三十年代から六十年代までの百有余名の会員が、遠く北海道、北陸、東海、中国、四国、九州から堂々御来集いただき、盛会裡に終始致しました事は、本部、幹部はもとより大阪方と致しましても非常な喜びでございます。遅まきながら紙上を借り厚く御礼申し上げます。

先般、新聞紙やテレビでうたわれております大相撲の柏戸、大鵬、若三杉等新進一口評、若くて、強くて、男前の通語其儘を借りまして、頭がさえて、働き盛りで、しかも現在女ざかりのお揃いですから、必ずや日本女医会も次ぎ次ぎと社会福祉のために、大きな貢献を成しとげらるゝ事を信じて疑わざる者でございます。

十一月二日に大阪方は、先般独国バーデン・バーデンの世界女医会出席二十名のうち、大阪代表川那部喜美子団長を始め、中田、西田、両女史歓迎と幹部諸姉の慰労会をかねて開宴席上種々談合致しましたが、大略左の様な結論を得ました。

才一、才一の急務は、全国女流医家の総入会に向つて努力、目的貫徹を期すること。才二、大衆婦人層と解けあうこと、例えば各地婦人団体に協力、社会福祉の貢献に乗り出すこと。才三、政治的にも今日の状態下無関心でいる事は許されません。目下日本医師会がとり組んでおります大問題、医療費の増額、甲乙二表の一本化請求問題の完勝を見ます迄は一層強力に努力すること、才四、目下日本全土に亘る病院診療所ストに対しては都度臨時会合を開き善処すること、才五、以上の問題が解決せざる限り総会は当分の間東京、大阪、交代に開催すること、以上でございます。此の内医療単価増額問題は、先般大阪に於ける総会の席上満場一致可決。請願文を作製し、即刻中山厚相選挙事務所に提出致しましたことは、皆様すでにご承知の通りでございます。

これ等はみな今後における女医会の進路の根幹をなすものと思われませんが、何分今の日本の真のすがたはよく戦後十五年と申されますが、殊に最近五、六年間の変化変貌は実に驚天動地的なもので、ひとり医業界に止まらず一般にわたり、昨日の面貌と今日のそれは、まるで変つていく有様です。したがつて、よほど賢明で感受力の鋭敏な頭でないとならぬ間に落伍してしまいます。その上個人主義は全く其あとをたち、強固な団体の大きな力でないとい何事の運行も出来ません。

由来医者や坊主は長袖と呼ばれて世相や経済的には、まことにうとい方でそれが濟世の士でもあつたわけですが、何んといつても医者は今の世には一つの弱者にほかなりません。今こそわれら全国の女医は力づくよく立ち上り、目まぐるしき変化におくれぬよう學術の勉強日常の研究相互の堅実なる団結、相互の助けあいを密にし大衆と共に強力なる社会福祉国家に向つて勇進しようではありませんか。

第五回日本女医会総会

於大阪田辺製薬ホール

第一部 午後三時開会

一、福井総会々々長歓迎挨拶

本日、北は北海道南は九州から二〇〇名に近いこの御出席を得、当大阪として皆様に心からお礼を申上げる次第でございます。

日本女医会が戦後復元して既に十有数年、此度始めて総会を関西にて開催され、地元一同大いに張り切つて尽力致し、今日こゝにかくも盛会を得ました事は誠に御同慶の至りでございます。予想外の多数の御出席があり、何かと準備その他に不行届きの点何卒御寛容下さいますよう。さて、当大阪は御承知の如く、京都、奈良、神戸等大会が隣接、女医会員の数も多く、従つて夫々、活潑なる女医会を結成しております。今後益々その緊密度を加え、お互いに手を取り合つて女医会の向上発展に努力されんことを期待致します。

所で、女医として日本最初の荻野女史の

出現から数えて今年は七十三年、以来女医の数は年々増加し、現在数に於ては米国に劣らぬ勢いであります。私は医者としてもうすぐ七〇年にもなりますが、まだ九十才迄は診療を捨てないつもりで頑張つております。

そこで、若い女医さんにお願ひしたいのは、現代はもはやすべての問題は国際化され、その為各種の問題解決にはぜひとも世界共通の広場が必要です。この度バーデン・バーデンの国際女医会に日本から二十名と云う画期的多数の参加があつた事は、大いに慶びとする所です。

これを機会に今後はあらゆるチャンスを利用して、国際的に進出し以つて眼界を広くすべきでありましょう。異つた国情、異つた民族の中に混つて語り合ふ事は確に十年の若返りがある様に思います。とはいへ、日本の女医会は他の婦人団体に比して、まだく封建的であり且つ弱い。先頃中山マサ女史の大臣就任歓迎パーティーに大阪女医会も出席しましたが、どう見ても現段階では他の婦人団体の方が優位に発言した活躍している、これらの婦人団体をリードする様な立場にまで、我々女医会は発展し、広く社会福祉の為に働くべきだと痛感しました。次のフィリッピン開催時には出来るだけ多数の会員の御参加を期待してやみません。以上大阪に於ける日本女医会総会の開会に当り御挨拶を申上げる次第です。

二、佐藤日本女医会会長挨拶

「私共は前会長吉岡先生御存命の時から、大阪には大先輩の福井先生がおられるし、是非一度総会を関西に持つて行きたいと念願致しておりました。その後も理事会の席で屢々この話が取り上げられ竜副会長、川那部副会長共々御賛同を得ていたのでございます。今日こゝに念願が実を結び才五回日本女医会総会の開催を見、且つこの様な思いがけぬ盛会を見まして、何はともあれ喜ばしい限りと存じます。と同時にこの度の開催に当大阪女医会の役員諸先生並に神戸、奈良、京都の各お世話頂いた先生方の御苦勞に對し心から感謝を表する次第でございます。本日は一七七名の御出席があると東京を發つ前承わつておりましたが、大多数関西及び関西以西の会員の御出席お見受けし、東京では且つてこの様な盛会を持つた事は一度もなく、今後は東京、大阪と交互に総会を持ち合い、会員の親睦をはかりたいものと存じます。目下東京では病院ストで、何かとごたごたし、東京女子医大も東邦医大もその渦中にあります。いろ／＼とこの様な医療問題についても今後は、日本女医会としての団結力を以つてこれが解決に当り、益々々の発展を期したいと存じます。

本日は誠に有難う存じました。以上を持ちまして御挨拶

と致します。」

以上で挨拶を終り竜副会長の音頭にて一同乾杯、つづいて議事報告に移る。

一、庶務報告(森)

過去一年間に常任理事会八回、理事会四回、行う。尚五月八日に評議員会を開催し、尚、忘年会、新年会、渡航歓迎会、フィリッピン女医会副会長歓迎会等の会合を行う。主なる議事内容は(一)日本女医会々々則一部変更の件(二)国際女医会々々議の件(三)日本女医史編纂の件(四)総会開催の件、その他であつた。日本女医会々々員数は現在三四一〇名であり、本年度中死亡者は九名あり、物故者に対し黙禱を捧げ御冥福を祈る。

二、会計報告(山口) 別頁参照

三、会則一部変更の件につき

会員の承認を受ける(大村)

四、日本女医史編纂の経過報告(福田)

各同窓会より八名の編集員を選び、既に大半の編集を完了、近々出版の運びになつてゐる。これが出版については多額の費用を要するので予約による出版方法を取りたいと思ふ。

素より本会としての事業であるからせい／＼御協力を戴きたい。

以上で議事報告は終り異議もないまゝ通過。

34年度会計報告

34.4 ~ 35.3

(雑収入内訳)

寄附金	100,000	(故吉岡会長)
"	8,000	{佐藤会長 山本杉氏}
広告料	195,500	
会合費	103,400	
利息	6,352	
香灸料	100,636	
その他	2,039	
計	515,927	

(備品費内訳)

整理戸棚、アテナ印刷機、他

(香灸料内訳)

故吉岡会長へ100,000

(雑費内訳)

会合費
会員香灸料、見舞金
(事務員特別手当 及び交通費)
(臨時事務員手当 その他)

(通信費内訳)

(故会長告别式 通知、総会用)
(会誌及名簿 発送郵税)
電話料金
会合通知 切手代、その他

計

34年度日本女医会費	
収入之部	
会寄	856,250
附金	575,927
収入合計	1372,177
支出之部	
通信費	239,222
消耗品費	3,777
備品費	60,491
雑費	211,681
出張費	21,160
印刷費	443,845
香料費	100,000
光熱費	11,000
給料	224,700
支出合計	1,312,876

差引過不足高	59,307
前年度繰越高	207,393
翌年度 " "	266,694

34年度国際女医会費	
収入合計	104,348
支出合計	13,517
差引過不足高	90,831
前年度繰越高	21,924
翌年度 " "	112,755
33年度繰越高(国際+日本)	229,317
34年度繰越高(日本+国際)	379,449

35年3月末現在	
資産之部	
富士銀行預金	170,972
安田 " "	5,596
振替預金	165,483
現金	37,398
合計	379,449

第二部

国際女医会理事會出席者報告

總會終了後引きつづき開會

一、川那部团长挨拶

不肖私はこの度国際女医会入会後、初の代表団々長としてその重責を荷い、独乙のバーデン・バーデンに行つて参りました。本日の總會には参加会員の四名の欠席だけで全員そろつて出席し、先ずは無事に帰国致しました。

佐藤会長他諸先生の御尽力御激励のおかげでと深く感謝致しております。こゝに厚く御礼申上げる次第でございます。また、わざ／＼御同行を頂きました小野連絡書記の終始、私共の為に目ざましいばかりのお付きをして下さいました事は代表団として誠に感激の到りでございました。後ほど小野女史よりくわしいお話もあり、また一行中の中田美奈子氏が大阪女医会報に詳細に書いて下さつていますので、私はバーデン・バーデンの感想のみにとどめます。

宿舎はオイロペイシエルホーフと云う南ドイツライン河沿いの温泉地であり、誠に気分的に爽快この上ない一流ホテルでありました。宿舎の前に会場があり、四日間そのホテに滞在して会場に

かよいました。誰一人も落伍者はなく、四日間を通じて私共は、日本女医会としての使命を充分發揮し、交友、親善の意味も含めて、全く充実した会に終始致しました。全般を通じて、とにかく外国人が非常に親切であつた事と質素であつたことは、特に印象に残りました。二年後にはフィリッピンで、更にまた二年後にはアメリカで、夫々開催を予定されているこの国際女医会に、皆さん一人でも多く出席し、国際的共通の広場に於て話し合い通じ合う事が親善の大きな意味を持ち、且つ日本女医会の名を広めるよすがにもなり、女医会自身の発展に寄与する所大なるものがあると思ひます。

二、小野国際連絡書記報告

この度の国際女医会の演題は「老令婦人」についてのいろ／＼な角度から検討がありました。今回は、二十一ヶ国約三百名の出席者があり、老人ホームに於ける婦人の精神状態また、男女の疾病の種類及び医者に離る率、環境と保健等について各グループに分れて討論会を行つた。医学的な報告は女医誌に載せる。

老婦人の精神障碍については、之等の障碍は主として孤独から来るものが多い、つまり自己に対する評価が衰える為に起る障碍であり、例えばその解決にフィンランドでは、

老人を老人ホームに閉じ込めず、逆に家族と同居させる様にするに云う方法を取っている。また、お喋りする事は大変よろしい、之によつてデプレッションの傾向から守る、と云つた様な報告もあつた。また、分鏡は日本と違い家庭でやる事を精励している。病院ではブドウ球菌等による感染が多い為と云うのである。



次回はフイリピンに於一九六二年十二月三十一日から開催、演題は「家庭医と親の教育」比国女医会長は、滞在費は当方ももつから出来るだけ大勢五十人でも、百人でもどうぞ御出席下さい、との事でした。予定通りの総会次才は以上を以つて滞りなく終了し

たがここで目下の医療情勢に鑑み、香川綾子女史より緊急動議の提案があり。

提案内容、目下行われている病院ストの問題は単に医労組のベースアップだけの事ではない。医療の共同の目的、つまり患者を診療し国民の健康を保護する、と云つた目的の為に医師は従来の技術一本やりでは解決は望めない、余りに純粹過ぎた且つての医師の在り方から脱却し、政治的経済的に制約を受けている現状打解の為、この総会を通じて我々女医も意志表示をし、立場をより有効に、問題の解決に全力をつくす事を提案します。

つづいて三上先生の賛成演説と共に、東京女子医大のストの実状の説明あり、竜先生からは、自分の母校である東邦医大も目下ストに突入しているが、これらの解決は結局政治面からしかない。この際決議文を作り中山厚相に提出して女医会への認識を新たにしよう事が肝要だ。との御意見、その他、開業医の立場から阿部先生、東京都医師会代議員の坂元先生等からも各々決議賛成を訴えられ、こゝに決議は満場一致にて可決、すぐさま起草委員を選んで請願書を作成、之を中山厚相に提出し善処方を要望する事になつた。

請願書

目下続発しつつある病院ストライキの現状に対し、厚生行政の責任者であられる貴大臣の御憂慮のほどを深く御察し致します。と同時に医療担当者であります私共女医は、この緊急事態に傍観黙視する事が出来ません。

こゝに、日本女医会は総会を開き、先般大臣の談話を発表されました現行医療制度の改善に満腔の賛意を表し、一刻も早くこの不穏の状態を御収集下さる事を切にお願い致します。

申すまでもなくこの原因が、医療機関の経営の貧困にある事は自明の理であります。看護婦諸姉の「我々はナイチン（無賃）ゲールでない」との切なる喜びに満足を与え、亦大衆の生命を完全を守る為にはこの際、健保の単価の適正引上げ以外には何物もありません。一刻も早くこれに向つて御努力下さいませよう請願する次才であります。

厚生大臣 中山まさ殿

日本女医会

………「梅田」北京「での懇談会」………

午後六時三十分開会

田辺製菓の本社から大阪駅前にある北京料理店まで、道のりにすれば大した距離でもなかつたが、地図に暗い会員さん達を思い、タクシーで住復して懇親会場に全員を送り込んだのは午後六時予想外にふくれ上つた出席人数の為にでもまた追加を注文しなければならず、世話人一同嬉しい悲鳴を上げる事だつた。約二十分待つて浜田乙女先生（鶴風会）の司会に初まり懇談会も亦誠ににぎ／＼しく開幕となつた。会員諸姉いづれも大いに喋り大いに食べ、高知女医会の方々の土佐節が出る頃は宴会も耐わ、徳島女医会からは阿波おどりの御披露「おなじあほなら踊らなにや損、損」と身ぶり手ぶりおかしく、負けじとこれまた大阪側から黒田節が飛び出すなど、いやもう笑い声と活気にみちあふれた会場風景でありました。総会で些か固くなつた頭を、この雰囲気で充分柔げ、まだ／＼語り足りない皆さんの御様子でしたが、時間も限られていた事故、午後八時半頃解散。こゝに十一月十三日の奈良観光、総会懇親会と相次での行事もきわめて盛会裡に終つたのでした。

次々とあわたたしいばかりに繰り掛けられた、この度の総会行事にも皆さんさしてお疲れの御様子もなく、世話人一同何よりも先ず、嬉しい事に感じた次才です。

第5回日本女医会総会 への反省と今後の期待

橋本恵美子

この度、関西において総会を開催すべく計画を立てられた事に就いては、会長佐藤先生及び竜副会長先生等本部の方達の並々ならぬ御好意と御配慮の賜である事はいうまでもありませんが、当大阪に於ては必ずしも、只ひたすらに喜んでばかりもいられぬ不安が終始つきまといつていた事は事実でした。第一、開催地である大阪には、折角御出席の会員諸婦を御案内する何処もない、といつて

むざむざとこの画的な企画に対してお断りする理由も格別になく、ここは一応お引受けして日頃は何かと疎遠になり勝ちな会員相互の親睦の為に誠意をこめて準備をしよう、という事でスケジュールを立て、神戸、奈良、京都各女医会の御協力を願つて、今回のこの総会開会への運びと相成りました。果してどれだけの参加が期待出来るだろうかという心配が絶えず、頭裡を去らず、開会迄の数カ月は何回となく連絡会議を開き、また他支部との交渉を重ね、知懇を絞つて、この企画が最も有意義な且つ印象的な花を咲かすべく役員すべて専心努力を重ねました。

今、静かに総会を振り返つてみて、かくも思いがけぬ数々の成果を見、感謝と喜びと前進の渦まきの中に感慨また新たなるものがあります。何か心につかえていた躊躇も"やれば出来るのだ"という新しい自信に変わりました。これだけの御出席を得た原因についてはいろいろあると思われませんが就中、国際女医会に本年は二十名もの多数が参加され、たたくべきその勇氣と、より深められた、国際人としてのプライドにみちあふれた参加者の大半の御出席が総会を引立たせる大きな魅力のポイントになつた事、近くに著明な観光地を持ち、夫々のスケジュールにそれ等を盛りつけた事。

時期的には、比較的開業医の仕事の困難な十一月であつた事、等が挙げられると思われます。観光については、お世話を頂いた各支部からのくわしい御報告もあると思いますのでここでは省かせて頂きますがこの際改めて神戸、奈良、京都のお世話掛りに御協力を厚く御礼申上げる次第です。

第一日目の神戸ではあいにく出発前から降り出した雨の為に、折角心をこめてお作りになつた予定のコースを取り得ず、神戸女医会の方々もさぞ落胆なさつた事だろうと私も残念でなりません。あたり一面墨色に塗り込められた神戸港の風情もまた一興あるものと思いましたが、

これが晴天だつたら、色とりどりに化粧された各国の特長ある貨物船やタンカーの印象など決して海外のそれにも劣らぬ素晴らしいものだつたでしょうに。只、この日は殆んどの方が長い汽車で着かれてそのままバスに三時間、少し疲労が克ち過ぎはしないかと反省させられました。ゆつくり休息するひまもなく、余りに盛り沢山なこのスケジュールには今後一考を要する事であらうと思ひます。

第二日目の奈良観光の一行が総会開会二時になつても姿を見せず、刻々と経つて行く時間には随分気を揉んだ事でした。司会役の大村先生も奈良へ御参加の事として三時近く迄待つて、取りあえず大原姉に司会をお願いした様な事でしたが、後で聞く所では、バスの出発時刻になつても一向に集合なさらぬ会員があつて、その為の遅延だとの事、これも団体行動をとる場合は大いに考えねばならぬ事でしょう。総会では、会長初め本部の方達の、さすがに場慣れたきびきびした口調は関西人として大いに見習う必要を感じました。大体に於て、女医は特に、人前ではつきり意見をいう修練がまだまだ未熟な様に思われます。中でも小野先生演壇での御様子は、国会に出られても決してはずかしくないだけの貫録十分という印象を受けました。巧みで無駄のない、それでいてユーモア、バラエティに富んだ話術というものはやはり一朝一夕にして作られるものではなく、出来るだけいろいろの機会に多くの人と接し、話し、而し

て体得するものなのでしょう。勿論、そうはいつてもやはり、誰にでも真似の出来る事ではなさそうですが……。

最終をかざる京都観光は幸い快晴に恵まれ、参加人員も一番多数を数え、先ずは満足すべき一日でした。当方の不行届き、連絡不十分の為に折角、何処よりも期待して頂いていたろう修学院の見学が、わずか二十名しか許可を得られず、しかも人数を区切られて、バスの乗り降り等に大変御面倒をおかけ致しました。ともあれ、無事に、且つ又この上なく有効な会を終え、三日間を影の如くついて歩いた私もやつと肩の荷をおろした思ひでした。

緊急動議として出された提案及び請願書の決議は誠に當を得た結構な事でした。ここに於て日本女医会もその存在を飛躍させ得た事と存じます。

今後の日本女医会の進路に一つの分別が加わり、単に女医の交友機関としての域を安全に脱却し、国際的には世界共通の広場において医学的、文化的に他国の女医との提携と親善があり、国内的には政治的に働く有力な団体として、目下の重なる医療面の壁を打ち破る推進母体として、また、他の婦人団体との融和と共同の話題への進出等益々多事多形なるものがあると存じます。日本全国各地からお集り頂いたこの期の総会の意義もここにその面目を新たに示し、大いに今後の発展を努力したいものと念じつつこの記を終りと致します。(大阪府支部)

まま母の心、まま子の心

世の中に継母といい、まま母ときくだけで何となく重つたるい険わしい心が浮んでくると同時にまま子という又あわれにもしなびた又は世の中を斜にながめているような、いびつな子のことを思いうかべる。一体これはこの継母子がわるいのか、世間の見る眼がわるいのか、私はいつもこれを真剣に考えてみるのである、考えているうちにまま子子が可愛そうになりまま母があわれになると同時に世間の多くの人達の考えをかえて貰いたいと思うまでである、いや考えをかえて貰うのではなく考えをまま子まま親の上に馳せて貰いたいのである。

えり子(まま子)は四才の秋母親に死別し五才の春まま母を迎えた、継母は同じ部落内から来たので以前から知つて居たし又好感を持つていたお姉さんであつたしかも二十二才の初婚の人であつた、「これからこの人がお母さんになつて下さつたのだから大切にしなさい」と仰

人のおばさんから申つたえをされたえり子は、うれしくもなく又かなしくもなかつた。家中がさびしさから救われたことについても別に何の感動もせずただ心のうちに「あんなの私のお母さんではない」と思つたのである別に父親を奪つたなど、と思つたこともないけれどえり子は母親のなすことすることが何もかも気に入らなかつた、それはすることが不親切だからなどいうことはなかつたし、不親切ではなかつた、なすことが下手なわけでもなかつたが、言うなれば自分には母親はないのだ母親でもない人が何をしてくれようとうれしくないものであつた、たとええり子が暮くなつてから帰つて来てもよるこび迎えてくれる母親は居ないのである、たださびしいうすぐらいの中へ入る気がしないこんな時真の母親が居たらえり子は「お母さん」と大きく呼んで家の中へ入るだらうけれど、第一お母さん、でもない人をお母さんと呼ぶのもてれ臭い、お母さんでもない人をお母さんといいたくもない致方がないから居ないことを承知で父の

名をよぶのであつた、そんな時の母の心を今の私の心で考えてみると全く何ともいえない気の毒なものであつたと思う、そんな時母は必ずお菓子を与えるのであつた、えり子は泣きながらよるこびの顔もせず菓子をもらいそれをたべる、故に夕食はまずくてたべないのであつた。夕方ばかりではない何事につけても自分の気に入らない場合はわけもなく唯泣いていた、悲しいから泣くのではない気に入らないから泣くのであつた、そして母は泣きやめさせるためにお菓子を与える、間食にお菓子ばかりたべているから食事はいつも殆んど摂らないそうしたえり子は蒼白いやせた神経質そうな少女として育つて行つた、そんな子供が可愛い筈がないのであるけれど、母はそのえり子を可愛がつて育ててくれた、そのうちに異母弟、異母妹がつぎつぎに生れて来たけれど母はいつとも「お姉さんは家で一番大切で一番えらいのだから」と教えていたし弟妹はいつもよい弟であり可愛い妹であつた。私は弟妹と差別ある扱いをうけた覚えもないむしろよりよく大切にされて来た、後に医者になるべく志をたててから試験がむずかしいからいつ合格するか、しないか見通しがつかないなど私が弱音を出すと母は、「こぎ出した舟だもの向河岸までつかなくては致方もあるまい広い川は流れ渡りという諺もある。気永くやることだ」

といつて、なぐさめ力をつけてくれた。後日いよいよ合格の電報を見た母は丁度風呂水を運んでいたというけれど、うれしさの余り腰がぬけて風呂水は中止したと云つていた。ある時私は母から聞いた話がある。母は私の家に後妻として来た日、私の亡き母の位牌の前で「子供は大切に育ててあげますからどうぞ迷わずに成仏して下さい」とおがんだといえり子は余りにも育てにくい子だから実家へ戻ろうかと幾度も思つたけれど、自分が帰つてしまえば又だれかが母となつて来るであらう、その時その母は目下の自分ほどにこの子のことを考えてやらないだらう」と思つて辛棒したと云つていた。

当時二十二才位のうら若い女性がと思うとほんとうに頭がさがり涙が出る思ひである。私が成人して世の中の人と母親の話をする時私は継母育ちなのだ」と云つても誰れもそんなに見えないと云われるけれど、それは皆その母の苦心のたまものであると今更に感謝するのである。その母は十二年前に齢七十にしてこの世を去つたけれどその母を思い出す毎に感謝の涙にくれるのである。



和やかに観光

《神戸観光の記》 至誠会 大塚文子

輝やかしい日本女医会総会の前夜祭と港都神戸に於て御
 越し頂くべく大型観光バスが定刻前より、神戸新聞会館前
 で待機していた。どうやら降らずに済むかと思つていた雨
 が午後になつてとうとう落ちて来た。三宮駅頭では早くか
 ら幹事の方たちが出迎への準備に大奮。お昼すぎにはそこ
 こでにぎやかな挨拶や歓声が聞え、和氣に満ちた大会の
 前途と思わせた。夫々のお仕事で出発の予定もつかなくつ
 たと飛行場からかけつけて来られた方や、朝五時から起き
 て「こだま」でやつと雨の中をバスにかけこんで来られた
 数名の方たちの到着を待つて、二時半、予定の四十八名を
 迎えて港都観光へと出発した。

海岸通りの居留地をぬけてメリケン波止場に向い、八十
 名定員の遊覧船に乗り移つて、約五十分間の港内遊覧であ
 る。昔ながらの川崎ドックヤードのネオンがく川崎重工業
 のガントリクレンも下から見上げると、そそりたつた巨人
 のようだ。そのむこうに抱かれるように入つた大きなフィ
 リッピンの新造船、ギリシヤのタンカー、又、荒肌をむき

出して修理をまつている貨物船など、しとしとと降る秋雨
 の中に巨体を横たえていた。新三菱造船所のドックにも外
 国船や潜水艦の新造船が浮んで居り、長い防波堤の湾内
 に数知れぬ船体があちこちのブイに繋がれてその偉容をた
 こつていた。その間をかまめが低く飛び交い我々の眼をほ



のしませしてくれ
 る。鉛色によん
 だこの海面も晴天
 であればどんなに
 美しい風景であろ
 う紅葉を交えた六
 甲の山々が望めた
 らどんなに皆さん
 が喜んで下さるか
 と残念で残念でた
 まらなかつた。長
 い長い外港防波堤
 の上に幾百羽とも
 知れぬかもめの一
 列縦隊の観迎をう
 けて皆一斉に歓声
 をあげた。悪天候



の何
 とな
 くし
 めつ
 た船
 内の
 空気
 も一
 変し
 た感
 じで
 あつ
 た。
 三時
 半か
 ら再
 度バ
 スの
 客と
 なり
 須磨
 浦公

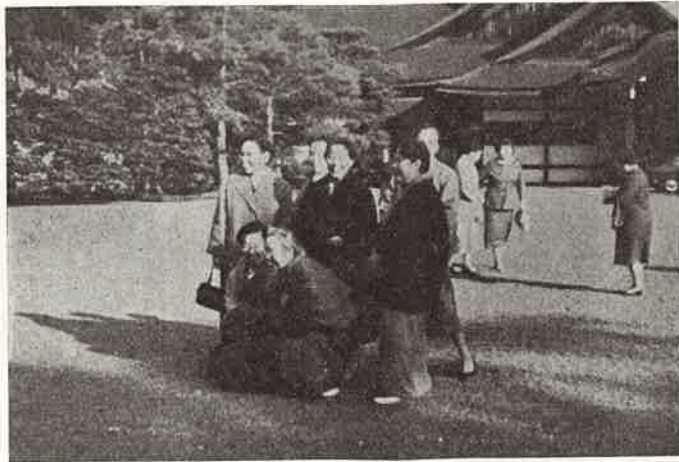
園へと向つた。雨脚はますますはげしくなり、案内嬢の美
 しい声もはつきりとききとれず、せめて須磨浦、明石、淡
 路島の展望でも出来たらと願つていた地元われわれの切な
 る願いもとうとういれられず、最悪の状態のまま須磨から
 山手を通つて一路神戸ホテルへと向つた。武庫雅克松風村
 雨堂衣掛町などいくつかの伝説につらなる名所も曇つた窓
 ごしの瞥見に終り、何もおわかりにならなかつたであろう
 と、かえもがえすも残念であつた。
 早朝からの出発で旅のつかれも一入。早く足でも投げ出
 してゆつくりなさりたい事と市内観光を切り上げる事にな
 つた。
 一九六〇・十一月・十二

《奈良観光の記》

美登路ミサホ

十一月十三日今日は奈良観光の日でございます。昨夜来
 の雨も朝になつて漸く晴間をみせて参りました。春日の森
 や、大仏殿には朝もやが立ちこめて静かな古都の朝でござ
 いました。私達奈良支部のものは、会員の皆様方を秋の奈
 良に御案内すべくお待ち致して居りました。そして第一の
 プランである鹿寄せの場所飛火野にてお待ちして居りまし
 たが残念にも皆様方を乗せた「バス」は先に春日奥山から
 二月堂の方へと向つて居りました。やつと昼近くなつて大
 仏殿の前で皆様方をお迎えすることが出来ました。が時間

も迫つて居つたため直ちに奈良ホテルでの昼食会に臨みました。遠方から多数の方がお越し下さいましてほんとに嬉しゆうございました。なごやかな談話の後に切角の事として時間を貰つて鹿寄せをしていただきました。あちこちに鹿の遊んでいる



飛火野に下り立つて待つて居りますと、係りの人の「ラツパ」の音を合図に、鹿舎に居る鹿が春日の森をぬけて十数頭一勢に駆けて参りまして私達の佇つている周囲を取り囲んでしまふのでございませう。頭をふり乍ら、又鼻を

つけに来ては煎餅をねだつて居ります。時間がありません。時間がありましたらゆつくり遊んでいただけましたものを残念乍ら早々に切に上げて名残を惜みつつ、テレビ塔の立ち並ぶ生駒山を左手に見て阪奈国道を一路大阪の会場へと向いました。最後に色々と不備の点がございました。ことをお詫び申し上げます。
(奈良県支部長)

《京都観光の記》

十一月十四日

午前六時五十分、グランドホテルに前夜来宿泊の方々を迎え入れたバスは大阪駅西口へ向い、ここで集合の人々を加えて同勢五十三人となり、京阪国道を京都へ向う。車中東寺の塔を左に見て京都の市街へ入り、予定より早く九時過ぎ京都御所に着く。うすら寒い風の中に列んで待つとの暫し、漸く京都市山科保健所長片岡昌子姉が差し向けて下さつた本日の観光マネージ一切をして下さる木仁氏に会い、早速御所を拝観、つづいて宝鏡寺へ向う。ここは代々尼門跡を頂く由緒ある尼寺で、折よく一年一回の人形展こ会期中で、各時代の風俗を偲ばせる珍らしい人形が展示してあり、「幾才になつてもお人形はいいものねえ」と見てまわる。京都の先輩佐々木幸枝姉がここから参加され、一同本堂の廊下の赤毛氈に三々五々腰をかけお庭を眺め乍ら、紅葉の形をしたおまんじゅうで薄茶の御接待に預か

る。早朝大阪を出て以来のバスの疲れが吹つ飛ぶ思いがする。

再びバスに乘車、平安神宮へ。美しい朱塗りの大鳥居をくぐつて、着飾つた七五三のお詣りの子女の姿がチラホラ可愛らしい。美しい庭園を一巡りし乍ら、あちらこちらで撮影欲にそそられてか、カメラのシャッターの音がする。数人の京都の方々の出迎えを受けて、池に臨んだ迎賓館で昼食。いかにも京都らしいきれいな折詰に、東京へお土産に持つて帰りたいから余分があれば……という御注文も出る始末。

一時半、平安神宮をあとに仙洞大宮御所へ。係員の説明を聞き乍ら御所の建造物、御苑を巡つた。御苑の美しさは聞きしに優り、よく晴れた秋空をバックに、黄金の美しさちよう、紅葉した落葉樹の数々、みどり濃い苔など、晩秋の午後のあたたかいひざしを浴びた一木一草のたたづまい、幽玄の境地に暫し我を忘れ、俗世を忘れ、自然の子となる。

次に訪れた二条陣屋では賊難に備えて建てられた古い市井人の住居の巧妙な仕掛に感嘆し、詳しい説明を聞き乍ら思はず時間を過し、ここを出た頃には秋の陽は既に西に傾き何となく慌しい思いで大徳寺に向う。大徳寺では有名な黄桜院の座敷で一休庵の精進料理を賞味した。席上佐藤会



長から佐々木姉に京都支部の形成について要請あり、一同これに同意、川那部副会長からも主催地大阪を代表して挨拶あり、ここで本年度の日本女医会総会の最後の行事を終つた。京都から帰途に着く方々と別れ、大阪へのバスの中は往路の半数となつたが、バスガールの祇園小うたの美声を楽しみ乍ら一路大阪へ向い、来年は東京で「有楽町で逢いましょう」を合言葉に、連日の行事に疲れてはおり乍ら心は満ち足りて別れの挨拶を交した事であつた。京都観光の準備万端については佐々木姉、片岡姉の外、加多乃会京都支部長、飯塚姉に御世話になつた事を附記し、謝意を表します。今回の催しを機会として京都支部が結成される事を祈り乍ら。

(大原記)

国際女医会議参加欧州視察旅行

羽田からコペン

ハーゲン迄の記

森田 キヨ

羽田で盛んな見送りを受けた私達一行十九名はいささか緊張した面持ちで機上の人となった。八月二十四日、十二時三十分である。機は一路北東に進路を取った。午後二時には地上六千米、遙かに雲海を見下ろし乍ら美しいスチュワーデスのサービスで中食を取った。五時半外界は既に暗く左側に北斗七星あざやかに輝く。八時半アツツ島上空を通過にあたり心に深く玉碎同胞の冥福を祈った。日本時間十一時機の前方より白む。点在するアルニューシヤン列島、白雪を頂く山々を眺む。午前一時、現地時間午前六時アンカレッジ空港に着く。アザラシの革の帽子にゲートルをつけたエスキモー親子を珍らしく見る。現地時間七時半、再び機上の人となる。北極圏のこの地方は脛具皿に藍をとかしたように無数の沼沢が見られる。ソンドラ地帯らしい。アンカレッジを立つて五時間下界は一望紺碧の海、角砂糖を浮かべたように流水が浮

ぶ、又千古の雪を頂いた切り立つた山々が続く。かつて探険家ナールセン達が命を賭して歩いたであろう氷原を私達は今機上で御馳走を食べ、雑談に花を咲かせながら見下ろしている事を思うと感慨深いものがあつた。天候の加減で北極を避けグリーンランドを廻ると機内アナウンスあり。向い風のため三時間遅れ給油のためノルウエーのゴード空港に着陸す。小雨降り空は重く寒々とした僻地の空港であつた。この辺まで来ると時間の觀念が変てこりんになつてしまふ。白夜の事とて日が暮れない。一夜寝て起きなければ一日暮した事にならない私達の常識は北極ではあてはまらない。そこで私達は時間と食事は貴方まかせということにし、御馳走が出たら食べ眠くなつたら眠るということにした。天翔けること三十時間、予定を三時間おくれて最初の予定地コペンに着陸した時は一行天国の味気なさ退屈さをしみじみと味わさせられていた。苦しみがあり喜びがあり、そして悲しみがあり楽しさがあるこの地上こそ私達人間にとつて最良の樂園である事に気付かせられた。

コペンハーゲンは名にしおう福祉国家、市街は色とりどりの花に飾られ子供と老人は極端に大切にされ、人々は誠実勤勉で親切、おまけに北欧独特な美人が多い。コペンは商業、ハーゲンは港の意なりと。この国は王様と五十年米政権を握る社会党とが仲よく協力して国の繁栄を計つてゐると。前世紀は水河であつた不老の瘦土から今日の繁栄にまで導いたこの国の人達の努力は賞賛に値いするものといわなければならない。輸出産業の一つとして遠く印度から原料を持って来て加工し輸出しているマホガニー細

工も大きい位置を占めている由。理論物理学は特に勝れ日本からも学者や学生が勉強に来ていと知らされた。税金は世界でも高位を占め平均三十%、高額所得者に特に高く一億以上の人は九〇—九五%という具合で大富豪はいない代りに貧乏者もない国ですといつていた。国家予算の三十%は社会福祉予算で、人々も税金は直に自分に還元される事を知つてゐる故に不服をいうものはない一人もいないと知らされた、世界一を誇る老人ホームには平均年齢八十二才という一千余名の老人達が至れり尽せりの施設に余生を楽しんでいる様子は羨ましいという言葉では尽せないものを感じさせられた。母子寮托児所も見学したが何れも完備した行き届いた施設で、社会機構が異なるからとはいへあまりにも御粗末なわが国の社会施設を思つて長歎息を禁んじ得なかつた。この国は春が遅く冬が早い精か人々は太陽の光線をむさほるようにな並木のベンチに、道端のレストランの椅子に腰を下ろしてお茶を飲み食事をお話をしてゐる風景は誠に微笑ましいものであつた。花を愛し人を愛し、そして生なきものさえも愛さずにはおかないといつた風に見えるこの国の人達の心豊かさが私達の心に深い印象を与えた。この町を人呼んでラブリーシイテといつていた。

☆(アム)(ステ)(ルダ)(ム)☆

西田 富美

空港から町までは牧場が続き、道端には干草が積んであつた。まだら牛が群れていたたり、あふれるほど水をたたえた運河も見ら

れた。名物の風車はなかなか見当らない。市街には木が多く、煉瓦造りの家並は古いが、窓には白い縁取りを施し、一軒々々異つたカーテンをかけ、鉢植の花等が飾られてあつて美しい。自転車の多いことは有名だが、子供は大人の後に乗せられて、すやすや眠つてゐる。

夕食後、アムステルダム女医会代表との間に交歓会が持たれた。私達が話合つたことは、両国の医師、殊に女医の現状や公衆衛生活動、社会保険制度等についてであつた。

翌朝私共の一部は運河から市内見物をした。とても沢山の橋をくぐつたり、度々曲つたりして異国情緒を楽しんだ。運河の水はきれいだったし、空気が美しく、日の光も輝かしかつた。一部の人はこの日、夜の見物をしたらしい。

その翌日は二つの興味深い見学をすることができた。

先ず養老院へ行つた。ここに収容せられてゐる老人は、保健婦が家庭訪問をした際に見付け出してきたものであつて、家庭に置くと困るが精神病院へ入れるほどのこともないというような人達だといふ。勿論費用は国家の負担である。女子二十人、男子十八人(男女共収容し切れないで家庭で待つてゐる人が沢山いる)の患者に対し、看護婦二十六人が勤務してゐるのはうらやましい。この養老人は有合せの建物を利用しているとはいへ、寢室、食事室、休養室、浴室等いずれも広く取つてあるばかりでなく、四肢の不自由な老人のために、特に気を配つて造られた浴槽には心うたれた。患者の疾病の原因、経過その他の管理成績について担当医から説明を聞き、学ぶところが多かつた。

次に保健所へ行つた。所長の Dr. Borstrap から、アムステルダムにおける上下水の処理、交通事故防止、乳幼児の健康管理、病院の管理、ロイマチス患者の看護等について、ていねいな説明を聞いた後、その保健所の設備や、ロイマチス治療の実際を見学した。その設備に、特に学問的な目新しさはなかつたけれども、そこに一貫しているのは患者に対する温い心配りであつて、それが立派に現わされていることだつた。例えば、足の不自由な人は天井からささえられ、片手の不自由な人には道具に工夫が施されて、四肢の不自由な人々もお料理を自分で造ることができ、家庭にいとと同じ気持で長期治療を受けられるように工夫せられていた。

金色に輝くロンドンの街

中田美奈子

アムステルダムを発ち、約二時間で白いドヴァアの崖を一旦たぎし、夕刻ロンドンに到着。機上より見えるロンドン市街はこの世にない黄金の街へ来たのかと、錯覚を起す様な金色に輝いている。(夕陽に映えたロンドンは何時もうすうらしい)。

飛行場から市街へ行く迄の家並は如何にも英国らしく黒く燦んで、コペンハーゲン、アムステルダムの様な美しい家はなく、汚

論)、ハンサムな巡回の警官が苦笑しながら素通りする六十才過ぎのジャンパーを着た恰幅のよい老人が「フニクラ」を声高らかに唱い、その周りの四五人の男女もポケットに手を入れながら唱つていたのは、見ていてもほほえましい風景であつた。又その老人の声がとても素晴らしい。人々を集めて置いてこれから自分の意見を述べらうらしい。地下鉄でボンドストリートへ出、ニューボンドから旧ボンドへ出て、ロンドン第一のおしゃれ通りを散策する。ウオーターブルブリッジの上に佇めば、テムズ川の夜風が膚にしみ、十月下旬の寒さ、ここからセントポール、ロンドン大学、ウエストミンスター寺院が薄明く照されて美しい。三日目の夜大阪のフェスティバルがこれを真似たと云う、ロイヤル、フェスティバルホール、パレーへ再び御招待を受けた。三階のロビーから見えるテムズ川のイルミネーションに輝く夜景が素晴らしい、パレーは二流のパレー団と聞いたが、旅情を慰めるには充分であつた。

(十月十日記)

遊心しきず、語り しつくせぬ、パリ

森川みどり

乳白色の空の下、パリの街は狭くて美しい陰影のある黒ずんだ石の建物と、その間を縫う汚のついた、鰐の道路には遠い歴史の深さが刻まれて、目を索く様なはなやかな調子はないが、不思議

れた服の労働者を見たのもここが始めてであつた。しかし翌日の市内観光で、トラファルガースクエア、ナショナルギャラリー、バッキンガム宮殿、ウエストミンスター寺院、国会議事堂、セントポール寺院、ロンドンブリッジ、ロンドンタワー、ピカデリーサーカス、ハイドパークを見るにつけ、大英帝国の格調ある偉大さ、その宝石の様な中世の寺院や古城に胸を打たれ、又人々の余りにも智的な型にはまつた規則正しさに目をみはつた。二日目の午前中は SOUTH LONDON HOSPITAL ROYAL FREE HOSPITAL SCHOOL OF MEDICINE を見学。夕刻幼時よりの知己、毎日新聞ロンドン欧州総支局長斎藤藤御夫妻の御招待で、一流レストランでチャーチルが好んで食べると云うコースで、スモークトサーモン、ローストビーフ、クリームキヤラメル(プリン)などを御馳走になる。不味いと言われる英国料理が大変美味しく、スモークトサーモンが鮪の様に美味しい。英国では医療は完全な社会保険で、開業医は各三百軒位の地区グループを持ち、予防医学治療に当り、難しいのや範圍外のを病院や他科へ紹介する。医者が二三週間休んで休暇をとるのは常識らしい。病院ではナース、シスターが大変親切でやさしく、治療費は無料。保険によらない医師の治療も受けることが出来、値段は可成り高いが早く処置を受けられ優遇される。ドクターの上がミスターと云う権威者の名前と呼ばれる。食後赤い二階建てのバスへのさきに乗つて、オックスフォードストリートを通り夜の街を見る。ハイドパークの隅のスピーカーコーナーでは自由の弁士がミカン箱の上で自由の言論を吐き(王室の批評以外の総ての言

な魅力をもつて芸術家のインスピレーションの泉となり、又貧しいころの旅人の旅情を慰めてくれる。

夜の花シャンゼリゼー通りのネオンには一つの原色の照明もなく、見渡す限り中間色が夜空に浮び上り、夢の懸橋となつて、哲し夢幻の境に遊ぶ心地がする。時しもあれ名物の俄雨の洗礼を受けんか、ネオンは一しお瞬き人々は歓喜に咽ぶことであろう。

そういうふんいきに調和する様に人の好みも地味で、さりげなく、小粋である。

緑の街路樹はよくゆきとどいて、喬然と生い茂り、両側の六戸七戸の建築と高さを競い、窓々から四季の変化を添えて、やさしい慰めと癒いを送っている。

木蔭のベンチには、無為に日光を浴び、休養をとつて刻を消しているパリジャンの姿も点景をなして、旅の緊張と解かれる想いがする。又近郊に迄及ぶ第一帝国を築いたナポレオンの業跡の数々と、第四共和国である現在のすべての姿が何の抵抗もなく渾然と解け合つて、美しい調和と、落ちついた感じを人々に与え、その印象は日と共にますます消し難い鮮さを増して胸中を去来する。

観光

シャンゼリゼー通り

マロニエにふちどられ、旧市街の市心に位す

コンコルド広場

市の中央大広場、二つの噴水と、八つの女神が安置され、革命広場とよばれた古え、ルイ十六世、マリーアントワネット、処刑される。

エツフェル塔

その展望は雄大をきわめ、パリのシンボル。

エトワール凱旋門

ナポレオンの起工になり、門の真下に無名戦士の墓があつて、不滅の灯と生花の供花あり。

モンマルトルの丘、モンパルナスの丘

いずれも大墓地で、丘の上に大寺院がある。

サント・シャベル。

ゴシック式教会堂、キリストのいばらの冠と聖母マリヤの遺物が納められてあると云う。

パンテオン

聖省ジュヌヴィエーヴ・ルソー・ユゴー・ゾラ・など文豪、思想家の墓も一部にある。

ノートルダム寺院

ゴシック式の美しい建物で、キリストの十字架といばらの冠の残片が納められている。

バスチーユ広場

バスチーユ牢獄の跡で、日本でバリ祭と云われている革命記念日は、この破獄の日である。

ヴェルサイユ

宮殿、庭園、林泉の美は世界的である。其他ムーランルージュ・リド・カジノ・ド・パリなど、数え来れば十指をはるかに超え、遊心はつきず、語りつきせぬ都である。

フランクフルトに於ける感想

哲翁たまよ

私共一行は九月五日夜八時ゼット機でパリ発九時頃フランクフルトの飛行場に到着、直に迎えるのバスにのつて一時間後ホテルに着いた。私どもの部屋はホテル玄関の真上の二階で立派で広い。暫く窓により外を眺めると、真向いの駅に出入する人、前を通る人、種々なる車電車の往復等繁華な所である。且つ色の照明灯で美しい。翌朝六時過ぎ起床、心地よい晴天。前を通る通勤其他の人波を見て特に感じたことは服装こそ質素であれ誠に力強い生活への歩みであつた。午前中は数人とつれだつて繁華な商店街に出かけたが、日本人に対し実に厚意的であるとの印象を受けた。

午後、一同は郊外の風致優れたレストランで昼食を取つた。それから市内観光し先ずゲーテ大学に行つた。これは一九一四年に創立された比較的新しい大学で法、医、哲、理、経済学部からなり随分広い。その講教室の教授は種々なる設備の放射線治療室を自から案内し丁寧に説明せられたが、設備の充実と教授の親切には全く感激した。次にゲーテの家の前を通りありし日のゲーテをしのんだ。此の家も激しい戦火をうけて破壊されたが今は復旧し博物館として公開されている。残念ながら時間がなくて入場することが出来なかつた。

当フランクフルトは人口七〇万、西ドイツの経済及び金融の中心地である。第二次大戦による被害は実に甚大であつたが目ざま

(ハイ(デル)ベル(ヒ)の(想出)

野見山静枝

旅をする人は誰でも思想家になり画家になり又詩人になると云われるが、フランクフルトからバアデンバアデンへの道はドイツの誇る「アウトバーン」で車は一〇〇キロ・バスは八〇キロの速さで疾走し緑深い唐松の森や畑の中に点在する白壁と赤屋根の小さな家々は或は詩に或は画となる。

曾つて多情多感な学生の頃、森田芥二先生の解剖学の講義の合間に洋行話を幾度となく聞かされ恍惚としてあこがれと羨望との想出多いハイデルベルヒ、幾年月経たあとと迄も心の奥深く刻み込まれ、又夢にさえ見た、ハイデルベルヒ、そのハイデルベルヒの古城へ遂に来た。

外人のすぎな百日草、雪柳、グラジオラス、窓辺の赤いゼラニウム等の花は無くも空はあくまで蒼く澄み渡り古城と大学の静かな町、素朴で美しい葡萄畑と果樹園に被われた谷間のネッカーの清流に洗われて発達したと云う古色、そうして幽しい町、幾星霜を経た今は深い眠りを貪っているかの様にひっそりと静まりかえりた町である。だから坂を登れば、つたかづらや名も知らぬ苔に包まれた城壁も幾年月の重みを見せ、城門の扉には城主の紋章らしいものを刻み昔を偲ぶ術とさえなつてゐる。

古城の名物に大きな酒樽がある。かつてその酒樽の上で舞踏会をやつた古事もあつたとやら、我等一行も肖かつて白葡萄酒を汲

しく復興している。現在では西独の空の玄関として航空はもとより、鉄道の大中心として活気がある。然しまだ所々に大砲弾丸の跡が見られる。その戦禍の中からも復興していることを思えばいかにドイツ人の心がまえがよいかをうかがい知ることが出来る。さて其夜は八時から欧州第一の植物園バルメンガルテンに於て日独親善の茶話会が開催せられ、一同大によろこんで出席した。日本側からは私共の他に日独親善会長石橋先生並に医学会出席のため渡欧中の男子の医師約十名其他はドイツ人で計七、八十名。初めドイツの日独親善会長、我が一行の星野様、次に石橋先生のお話があつて後お互に近くに居並ぶドイツ人と親しく楽しく自由にいともなごやかに語り合い、十時の閉会の時刻となり止むなく私共を代表して団長川那部様が謝辞を述べられて名残り惜しくも散会した。此の会の中に思いがけなく九州大学の第二内科助教榎藤先生が居られて私の息子二人の先輩であられ、先生もよく息子を知つて居ると申され色々話し殊におなつかしく感じた。尚又ドイツ婦人の一人と話して見れば其人の母上は日本人で、私の家より十二軒離れた所に居られ、二三年前母上の許に来られその際私の病院で受診されたよし、驚き且つお互にうれしく語りあつた。翌七日朝予定通り八時に出発してハイデルベルグに向つた。当フランクフルトは私共の最大の目的地ドイツ入りの最初の都市であつて、僅か一日余りの滞在であつたけれども本当に楽しい心の温まる愉快な所であつた。

みかわした。

城壁突端よりあちこちに点在する古城の眺めのよき、ハイソリツヒとケツテイのロマンスを想い、ネツカーの清流と共に永久に旅人の心をゆさぶるであろう。

学生のロマンスの店でもあろうか鄙びた家があり、その家の天上といわずテーブル又腰掛といわず、大小の字が克明に書き記念付けられてあり、若人の血の充奮と躍動そのものはゲーテならずとも随喜の涙にむせんだであろう。一行も「ジヨツキ」で乾杯、静かに想う、眺めよい綺麗なところは数あれど昔も今も変わりなく素朴で古く清い静かな学校町はハイデルベルヒであろう。

いつまでもいつの世までも若人に夢と希望を与えよかしと叫び、筆をおく。

思出での 人形飾る手を休め

若むす古城に心残しぬ

三五・一一・十五日

野見山 静江

バーデン・バーデンにおける 国際女医会理事会の報告

小野 春生

九月八日より十日までドイツのバーデンバーデンで開かれた国際女医会理事会へ二十一ヶ国を代表して三百名以上の女医が集ま

りました。その中へ正式に入会して始めて日本女医会が参加致しました。日本女医会からは、飯沼さち子、犬飼美代、上田葉、小野春生、川那部喜美子、佐藤菊子、作田静子、田辺かすみ、滝沢テル、竹内富美子、哲翁たまよ、中田美奈子、仁瓶礼子、西田富美、野見山静江、星野礼子、森川みどり、森田キヨ、吉岡敏子(五十音順)以上十九名出席しました。

第一日は国際女医会会長の Dr. Janet Aitken ドイツ大統領夫人 Frau Wilhelmine Lübke、及びドイツ女医会会長 Dr. Grete Albrecht の開会歓迎の挨拶があり次に演題老齡婦人にうつりました。まず米国の Dr. C. Ryder の「男性と女性とどちらが弱い」と題して次の事を言われました。現代の米国に於て女性は男性より病気に對する抵抗力がありますと言へることは抗生物質のおかげと言えましよう。しかし内分泌性疾患特に糖尿病の発病率は男性より女性の方が二倍発病し易いし又生殖器癌も女性の方に多くみられます。世界のほとんどの国に於て女性の平均寿命は男性のそれより長く米国に於て六十五才以上の人口の半分以上は未亡人でありますのに対し男性の未亡人はわずかその四分の一にしか達しません。米国では今後四十年間には六十五才以上の人口は女一・四五に對し男一・〇〇になります。米国の致命病の一つである心臓疾患の致命率は四十才から七十五才のグループに於て男十万人に對して八七二人であり同じ年齢グループの女十万人に對して四三七人であります。過去二十年間で女性の心臓病致命率は三十パーセント減少し男性では三十パーセント増加しました。これは単に男性が社会に出て働くストレスとのみ考えられませ

ん。何故ならば Medigan-Vance の報告に見られる様に同じ条件で生活している三万人のカトリック尼と一万人のカトリック僧侶の四十五才での残存寿命は女性三十四年であり男性は二十八年で開きが五・五年ありました。そこで何故女性の方が長生きするのでしようとい医者へ行く回数をしらべましたら女性は年平均五・五回男性は年平均四回、入院は男性の方が長期間入院しているので女性の方が早期に病気を治すのではないかと報告されていきます。

次のフリリッピン Dr. Carmeu Salgado Ora の老齡婦人の代謝障碍と必要栄養量についてお話がありました。老人になりますとストレスに對する域値が下りグルコーストレランスも下ります。老人病學で大切なことは老人に必要な栄養を摂取せしきかもこれを維持させることです。時に歯が悪いため経済的に又は習慣のため、心理的又は自由がなくなつたため又は間違つたブライドがあるためにこれが実行されません。必要カロリーは年齢と共に減少します。二十五才を過ぎますと十年年をとるたびに代謝は五パーセント減少し、必要カロリーは七・五パーセント減少します。その際摂取蛋白量を増加させ(一キロあたりニグラム)脂肪を減少させ(全カロリーの二〇から二十五パーセント)ビタミン及びミネラル特に鉄とカルシウムを充分に与える必要があります、又自分で食物をえらばせ同時に身体的に過当な運動をさせる必要があります。

フリリッピンも他の国と同様に糖尿病が女二對男一の割合に起ります病形は両性とも変化がありませんが老人に於てインスリン

量は若い人程必要がなく又血糖も正常値まで下げる必要があります。せん、ケトアチドーシスは老人にはあまりおこりません。

Osteoporosis は更年期によくおこりますがこれは性ホルモンが急に減少するためでしょう。女性に於てカルシウム及び磷の排泄が男性より多い、ことは皆様もよく御存知の通りです。治療の際カルシウム、磷、ビタミンD及びC、蛋白質等を増加して与えるとともにエストロゲンとアンドロゲンを一緒に与えると効果があります。

Sibestrol を一日一・五ミリグラム経口的に四週間与え一・二週間休みます。悪心があれば Permain を経口的に一日一・五〜二・五ミリグラム又は ethinyl estradiol を経口的に一日〇・一〜〇・二ミリグラム又は estradiol dipionate を五ミリグラム週一回注射します同時に methyl testosterone を五ミリグラムを毎日又は一日おきに四〜八週間男性化が現れるまで与えますと効果があります。

次に Dr. H. H. Heurbeval が老齡婦人の心臓血管病理について話されました。老婦人に特に見られるものは動脈高血圧でこれは六十才以上の女性の方に多く見られ何か更年期と関係ある様に思われます。

第二日は Dr. G. Geinitz の老齡婦人の精神障碍について報告されました。

身体的老化は若変りませんが精神は老化する一方とは限りません。過去の経験をいかして新しい事に興味を持ち又新しいことも始めることも出来ます。最も多く見られる精神障碍は孤独を感じ

又身体の不自由を感じ動作がにぶるために自己に対する評価が低下することです。これに打勝つ精神的活動性とは今までの精神的成熟と意志のあるかないかによります。勿論これは身体的に健康であるか又は環境によつて左右されます。女性は更年期のために生産能力がなくなつたと思ひ込む所から始まります。これが精神障痲になるかどうかは彼女自身の性に対する態度と性格によつて異ります。ここでもともとノイローゼのある人は悪化することがあります。例えば自分の年を否定する infantile hysterie 又はすべて受身になつてあきらめる人間はよくありません。

Psychose は婦人に depression の形をとることが多い様です。

老婦人のアルコール中毒者の九十パーセントは淋しいのが原因で飲み始めます。ドイツで一九五五年の統計では老男性アルコール中毒者五・六に対して同女性は一でしたが男性を二十名全治させるより女性一人をなおす方がむずかしいと言われております。結論として年をとることは成熟することであり円満な性格をもつ人間になることです。

老婦人の rehabrilitation について Dr. M. Waren が報告するはずでしたが Baden Baden へ来る途中フランスで自動車事故でなくなりました。私共日本代表は数日前に South London Hospital で私共を歓迎して向えて下さつた女医の一人で立派な医者であり人間でもありました。私とは医学教育のお話をしかけて「私が女医の教育について話したすと長くなるからいづれ Baden Baden へ長時間かけて意見をお互いに述べましょう。」と

ます。そのために老人に的した家が大规模に作られています。又その老人のために看護婦が廻つて訪問の形で看護のやり方を若い人に教えたり手伝を町の私的団体が作つて老人を見て上げています。と報告されました。

Dr. Seigel の老人ホームに於ける婦人の社交生活と言う演題で次の事を述べられました。婦人が老人ホームに入るのは大体に於て自分の意志によるものではなく家庭で手がたりないため又は看護が必要であるためです。今までにぎつていた権力特にお台所での勢力を放棄しなければいけなくなります。彼女としては自分が置かれている環境から離れなければならないことになりました。したがつてホームに入ることがショックでありなれるまでに五日から三十日もかかります。この新しい集団生活に順応出来るのは三分の一位です。他の老人はこの様な生活に反抗したり又はいやいやあきらめて自分をあわれなみじめな人間と思ひデプレッションに入ります。この様な性格のどちらになるかはその人の今までの社会的地位にも関係しません。

女特有なグループ心理として所有力が強いこと同じに他の人は少し変りたいと意識的無意識的に思うことです。例えば皆同じ洋服を着せても女は自分のボタンを変えて見たりししゆうをしてみたりして他人のとは変え様とします。又花一輪でも自分の物がほしいのですから庭を共同のものに全部せずに一人一人に土地をわけて自分で花を植えさせてもよろしいです。身体の不自由者には鉢植え一つでも結構よるこびます。又老人は適度の自由を望みます。例えば食物に塩をかけるかチーズにするか又はナマキ地を皆

言つて日本の他の先生方と一人一人お話をしているらしいです。社交儀礼を充分にこころえた先生でした。

Dr. Waren の報告は他の人によつて読まれました。Rehabilitation に一番大切なことは各科の医者が集つて一つのチームを作り一緒に働くことです。治療も必要ですが予防対策を早期にすることはもと必要です。若い人に行う様な治療とは異り老人に適した治療及び機械を用いる必要があります。同時に病巣だけでなく精神的にも治療を行うことが大切です。それには社会が老人に対する態度も良く変えなくてはいけません。年をとることは当人の frustration だけではなく社会の負担になつてもいけません。予防対策の一つとして余り運動をさせても又その反対に安静をとらせすぎてもいけません。体重が増加過ぎても又夜寝られないからと言つて睡眠剤を与えすぎてもいけません。一番重要なことは老人に独立心と活動出来る様にして上げることですと言つていらつしやいました。そこで運動が不自由になつた老人の衣類、ツエ・ベッドイスの高さ等について述べられました。

次にフィンランドの Dr. Seppanen が老人の Institutional-and Home Care (ホーム及び家庭での看護)について述べられました。

北欧では前世紀から老人ホームがさかんに作られています。現在ではなるべく老人はホームに入れずに家庭においておく傾向にもどつて来ました。どうしても身よりのないため又は家庭の不和のため家庭生活が出来ない老人のみをホームに入れる主義になつて来ました。老人もこのやり方に賛成します。社会のためにもなり

同じガラの物を与えるよりもガラを二つ位にして自分の好きな方をえらばせるのも女にとつて自由を意味します。あまり多くの種類から選択させると迷つてしまいますから気を付けなければいけません。又女は気が変わり易いのですから取替えられる様にしておかなければいけません。女は仕事をするのも何となくしているより目的を与えてさせる方が希望をもつてよく働きます。グループには必ず発言者が出て来ます。この人は必ずしも教育があるとか社会的地位のある人間とは限りません。この人がグループを左右することが出来るので私共は上手にこのリーダーを指導すべきであります。

又グループから白外視される人が出て来ることがあります。この様な老人は難聴者が多い反面目が見えない、人はかえつて気の毒がられて皆が手伝つてくれます。

老人ホームに働く人間を充分に教育し老人をホガラカに希望をもつ様に指導する必要があります。と報告されました。理事会は夜開かれました。国際女医会書記の Dr. Peterson の経過報告の中で吉岡弥生先生その他亡くなつた先生方の名前が読み上げられ黙禱を捧げました。日本女医会が入会し代表を十九名も出席しましたので皆の拍手をいただきました。

老婦婦人のデータを集めるのに協力下さいました皆様に感謝の意を伝える様にいたしました。

次回一九六二年の十二月三十一日よりの総会はマニラで開かれることに決定されました。演題は家庭医と親の教育と定まりました。

皆様大せいらつしやる様にフィリップの会長がいつていらつしやいました。

☆バーデン・バーデンにて☆

☆☆川那部喜美子

長い立派な伝統を持った、上品で重厚な基盤の上に、適当に近代化された設備と素晴らしい環境にある独乙一流の温泉保養地というのがバーデン・バーデンの印象である。私達一行のコーチ（小型バス）は、ハイデルベルヒから約二時間、小雨の中を走りつづけて、やつとこの目的地バーデン・バーデンに入った。古風な田舎駅を右手に過ぎ、がっちりした比較的近代のセンスの商店街を抜け、ゆつたりした並木道に入り、間もなく小川沿いの白亜館の前に停つた。ここが会議中の私達の宿舎オイロベイツシエルホーフであつた。内部は厚い深紅の絨氈を敷きつめどつしりとした古風な調度でしつらわれた豪華なふんいきのホテルで、一行の室は本館と別館とに分れて割当てられていたが、いずれも快適な室で四日間を、楽しく過ごすことができ当地での華かな国際会議参加の思い出の背景を十分に作つてくれたのであつた。

会場はクルハウスと呼ばれているまばゆいような白い大理石づくりの建物の中にあつた。宿舎から並木道をよぎつて、斜向うにその前庭に入る小道がついていて、雨上りの夕方、此処を通つて登録に行つたのを手初めに、四日間、いく度かこの前庭の美しい花壇を通つたのであつた。

史積ゆたかなる古都ミラノ

佐藤 菊子

いう迄も無くミラノはローマに次ぐイタリア第二の大都市。人口百三十万。産業財政の中心地。また、アルプス南斜面にある風光明媚な湖沼地方に近いので観光地としても有名である。スカラ座、ブレラ絵画館、ミラノ城、サンタマリヤ・デレ・グラツイエ寺、ヴィットリオ・エマヌエレ美術館、ドウオモ広場等見学したい所が多い。しかしもつとも急ぐ人にとつても見物に一日半はかかる由。

私達一行がミラノ飛行場に降り立つたのは九月十三日午後三時五十分。スイスを飛び立つたのが二時三十五分。名にし負うアルプス越えも殆ど夢中の出来事であつた。

ミラノ滞在の予定は僅かに二時間半。全く短時間の観光なので文字通り窓より一寸のぞいた程度。

南欧への第一歩。今迄歩いた欧州諸国の陰鬱な曇天から解放された青空。急に上昇した気温に気付く。

観光バスに乗る。料金は五弗。ガイドはイタリア人。英語のおしやべりが気取つておりその上吃りで仲々奇異な感じだつた。五十才位。大学の教授をしたといつていたがどんなものか？

街は道幅がせまく建物がこんで小型自動車の数の多いのと。スビーデーイなのとその色が多様なのが目立つ。人種は背が高くな髪の色が黒い者や、ひげを蓄えた男性が多い。

クルハウスの正面玄関を入ると広いホールで、床上にちかかに美事を盛花が飾つてあるのにまず目を見張つた。広い緩やかな階段が階上に導く、その階段の両側に菊の花がびつしりと盛り花されていて、実に華麗な気分をかもし出してた。登録受付では独乙女医会の方はじめ、居合わせた人達が皆で温い歓迎の言葉と共に手を差し伸べて迎えて下さつた。旅行中、いく度か打合せ会をしてあつたので、まごつくこともなく登録その他の手続きを了えて、各自三々、五々宿舎へ引きあげた。その日、小野春生女史は自室にタイプライターを借り受けて、私達一行のコペンハーゲン以来二週間にわたる各地での見学視察日誌の整理をされた。記憶の照合に時々質問を受け、メモの頁を繰りつづ、女史の鮮かなキイの音と共に、でき上つてゆく英文メモを眺めて、私は、今更ながら、良い方をもつていることを、そして又この方を一行の首脳メンバー中に推薦して下さつたことを会長様に感謝したことであつた。旅行中、殊に会議中、語学力と社交的才腕を以て一行のために奮闘して下さつた女史の功労は大きく、実に秀れたものであつた。一行中の森川女史の揮毫になる日本老年女性職業の国四十枚余の色紙を以て、日本女医会事務局会計に相当額の寄附をした事になるという、予期しない花を添えたのも女史の機智による進言の結果である。バーデン・バーデンの思い出と共に、私は小野女史の功労をたたえたい。ここで四日間、私達十九名は元気に、会議、講演、又黒い森の山村へのバス遠足、当地の温泉治療設備見学等に参加、スケジュールを満喫し、各国女医連と提携交流の実を挙げたのであつた。

先ず始めにドウオモ広場に出る。南欧の美術工芸の中心地であるミラノ市の心臓部で奇麗な商店が立ち並びイタリアのモードもここから生れるといわれる。

広場の中央にはヴィットリオ・エマヌエレ二世の記念塔が立ち周囲には市の誇りであるイタリア最大のゴシックのドウオモ大寺院がそびえる。その大きさに驚き、白大理石で造られた三千体を越えるといわれる大小無数の尖塔が天に迫つて誠に壮麗を極め内部の旧約聖書と新約聖書のステンドグラスの何ともいいえない。美しさが特に印象に残つた。

ドウオモを出てから有名なオペラ劇場スカラ座をバスの中から見る。折から修理中で前面にヨシズが懸つていて中が見えないのが残念であつた。左手には古今の劇場やオペラに関する博物館が建ち並ぶ。

更にバスは市内を抜け、昔ナポレオンが造つたというバリーに似た並木通りになると、道幅も広くなり、右手にパークが見え、遙かあなたにナポレオンが凱旋門を造りかけていて島流しされ未完成のままであつたのを後からイタリア人の手で平和の門として完成せし由の門が見える。パークには若い二人連れがゆつたり楽しそうに散歩しているのが見えた。時間も迫り見尽くせぬ思いを残してバスはフルスピードでミラノ停車場へと走り、六時二十五分発ベニス行の汽車の人となつた。

工芸のたくみさ ゆれるゴンドラ(ベニス)

田辺かすみ

「水の都ベニス」の言葉は古くから刻まれていたが今限に見る現実の素晴らしさ唯舟船水々に尽きる例によつて駅前からバスでホテルへと云うのが何と大形モーターボート即水上バスで玄関横着け、その間の水路は広い運河から枝から枝へ迷路よろしく夜は街灯も稀な暗い河岸石垣スレスレの所もある。ゴンドラが赤いラントンを揺り乍ら哀調の民謡やギターを弾きつつ往來して只さえ感傷的な旅人の心をゆさぶる。この無数の道路代用の運河は百八十から存在する埋め立て人造島の当ベニスの大切な動脈である島と島をつなぐ歩行道は四百の反り橋と狭い街があるが勿論車は通らないので全部舟行であるこの事は歴史が語つて居るベニスは三百年前には一大海運国で三千三百の商船を有しトルコギリシヤまで領有し東洋方面へも進出したとかそれを表す建造物が私共の泊つたホテル BAYERGRUNELWALD. の裏側にある有名なサンマルコ寺院と旧王宮である寺院を中に正方形に建物並び中央に大広場があり無数の鳩の群が旅人や市民に戯れ三方の旧建物は現在には有名商店の売店、レストランと代りベニス一番の盛り場を作つて居る。

サンマルコ寺院はサンマルコの墓所でもあり金色豪華な壁画、

山美しきスイスの巻

作 田 静 子

三日間のバーデンバーデンに於ける学会も無事にすみ、ほつとした気持で九月十一日十時三十分「オイロピエツシエルホテルを出発スイスに向かつた。この汽車は三人づつ向い合つて坐席があり片側が通路になつていた。

バーデンを十一時二十八分発車、十二時二十五分フライブルグに一分停車、そこで食堂車に乗り込んだ。車窓より見る途中の景色は素晴らしく広い畑の中にたわわに実つた赤いリンゴや黒いぶどうが真昼のひざしをあびて美しくかがやいていた。又ビルネやとうもろこしもたさく見られた。見渡す限りの牧草の原つばでトラクターが草を刈り取つていた。多分冬の支度の為である。十三時いよいよスイスのバーゼルに着いた。食事中バスボートの検査があつた。バーゼルで乗りかえてブルグ駅に着いたのは十五時十五分、静かな美しい黄緑の広々つづくゴルフォースの様な若草山の岡に赤い屋根が点々と見える。

スイスの山は美しいとかねがね聞いていたが実に美しいと思つた。民家のベランダのてすりの上も農家の窓辺にもみんな真赤なゼラニウムが咲き乱れていた。十六時十分いよいよ我々一行はチューリッヒ湖畔のホテル「ゼーガルテン」と「バターフライ」に分宿する事になつた。

チューリッヒ湖上にはたくさんさんのボートやヨットが浮かんで真

神像など瞳目に備する殊に有名な事は建物の下層部はゴシック風の九百年前の姿であり上層部は多分に東洋的の物が取り入れられて印度タイ国の寺院風を思わせる。これは当時の東洋との交易の盛んであつた事の証拠で大船主等の献上品と伝えられる。

寺院の後右側に広大な王宮がある四百年前のルネッサン風建物でこの王は選挙により一代限り交代だつた由、宮殿の床は全部人造大理石が張られ或る室には世界最初に作られたと称する紙製の地球儀や幼稚な世界地図が飾られ壁画には商船主から王に珍宝を献上の図など海運図を物語る数々があるこの王宮も二面は海に固まれ政治犯を投獄したと称する石牢など海水面より下位にあるが浸水しない陰惨な感が深かつた。だつていた。

ベニスではお役所も教会堂も運河を隔てた島々にあり所用の都度軽々と子供でもゴンドラを操つて行く私共には何となく大変に思われるのに、ベニスの特産の硝子の工場見学にホテル玄関から大形モーターボートで大分遠い島へ渡る少数の工人の手先きから精巧を極めた金銀色彩とりどりの豪華なシャンデリヤ種々のカッブセツト、花瓶アクセサリー、人形等々造り出される神技には驚かされた。

日本人が器用を誇つているがこの国の人工芸術は日本の先輩であり又競走相手でもある食物も魚類など日本的に住人も髪が黒い人もあり、何か日本風でなつかしく案内のベニスの人の親切であつた事も忘れ得ぬ想い出である。昭和三十五年八月欧州に旅して (日本女医会愛知県支部)

白な帆が夕日に映えている。

聴てスイスの一夜は明け翌十二日、午前中は都立病院と養老院の見学、午後は市内観光である。都立病院と云い、養老院と云い流石は戦わざる国の立派な厚生施設、行き届いた社会保障の様子を眼のあたりに見てうらやましく思つた。午後の観光にはかつて十八年間日本で貿易商をやつて居たと云うガイドさんいろいろな説明を聞いた。直径九米高さ十ヤードもあるヨーロッパ最大の時計もあり時計王国の名にふさわしいものと思つた。丁度此の日は一年に二度の秋の「子供の日」のため休日で学校はお休みだがチューリッヒ湖やプールには多勢の人がくり出して泳いでいたりボートやヨットを浮かべて静かな半日を楽しんでた。チューリッヒの町が一望の元に眺められると云う岡の上にはしばし車を止めて美しい景色に見とれた。アルプスの山々は丁度かすみに包まれて見えなかつたが天候に恵まれ実に素晴らしい眺めであつた。市内観光が終つて午後四時半から大学精神科の見学、ドクターラウスには真暗くなる迄親切に病院の隅から隅迄案内され、見せて頂いた事等、此の日の感激は今も尚忘れる事が出来ない。ホテル「ゼーガルテン」では日本交通公社の杉浦氏の計らいで、夕食に久し振りにスキヤキを頂き、日本酒、やきのり、味の素迄揃えてのサーヴィス振りには感心した。夢に迄見た御飯の味に只夢中なかぶりつき皆に笑われた事もなつかしく思い出す。旅行中皆様に御世話になつた事など私の一生の楽しい思い出として何時迄も胸に残る事と思う。

渡航自由化の日も

そう遠くはありません!!



モンマルトルの丘にそびえるサクレ・クール寺院 パリ

海外旅行のご相談は

創立48年の 日本交通公社へ

業務内容
 外貨、旅券、査証等手続一切
 航空券・乗船券等の発売
 ホテルの予約
 海外旅行傷害保険の取扱
 その他

海外旅行取扱営業所所在地および電話番号

東京	211~3211	名古屋	54~4691
	201~3647	京都	23~2305
	201~2933	大阪	26~4922
札幌	4~6201	神戸三ノ宮	2~3088
仙台	2~3360	広島	4~8839
横浜	2~8724	福岡	4~6360

編集後記

ものが豊富だということは何事にかぎらず快よいものである。今度のこの記事、大阪を中心としての関西の皆様の実心のみなぎった総会事項の報告と国際的進出のめざましい、うれしい読物、何んという実のある盛り沢山である。日頃の願いが叶ってきたようにまことに御同慶に堪えない。

尚ついでに記事、総会に際して司会者大村が定刻に不在のため開会に齟齬きたしたとの文面に対しましてに申訳なく、真に汗顔の至りである。が実は総会の前夜深更になつて責任者から「明日の司会は現地の方がすることに変更になつたから」との電話があり、やれやれ安心、それならばゆつくりと奈良観光のお供ができる……と出かけたのが原因であつた。一寸真相を記して無責任の責任を明らかにすることにした。(大村)

「日本女医会誌」通刊第百二十五号
 昭和三十五年十二月卅日発行
 定価 卅円
 発行人 日本女医会
 編集人 福田 幹
 発行所 東京都新宿区河田町一九
 至 誠会本部内
 印刷所 東京都中央区宝町二ノ七
 秀峰美術印刷株式会社

労働大臣許可

美德看護婦 家政婦 紹介所

所長 杉本 は な

所在地 東京都新宿区若葉1丁目8番地
 電話 四谷(351) 1806・0355

業務案内

創業60年の看護婦会で先生方にはじめからずつと御支援頂いております。なお今後一層のお引立をお願い申し上げます。

各科領域のステロイド療法に
優れた治療効果を挙げている…

三共の合成副腎皮質ホルモン剤

●強力な抗炎症・抗アレルギー作用 ●症状に応じた各種製剤

リウマチ性
関節炎
気管支喘息
蕁麻疹
皮膚疾患
血液疾患
妊娠悪阻
等に…

副作用少なく、少量で強力な治療効果
トリアムシノロン

ケナコルト錠

●少量(成人初用量8~16mg)で強力な消炎、
止痒、鎮痛作用を発揮する ●電解質平衡に
影響なく、安全である ●浮腫、昇圧等の副
作用は殆んどみられず、長期投与もできる
(2mg)50入 (4mg)10入 30入 100入

皮膚疾患の局所適用に
トリアムシノロン・アセトナイド
ケナコルト-A
クリーム・軟膏 各0.1% 5g

急速な効果を必要とする場合に

デキサメサゾン

オルガドロン錠/散

●少量(1.5mg~3mg)で奏効する ●他のコ
ルチコイド無効、継続治療困難な場合に好適
錠(0.5mg 0.75mg)各10入 30入 100入
散(1000倍散) 25g 100g

関節炎の腔内注入で
急速、持続的な効果が得られる

プレドニソロン

ドニソロン注

コルチゾン、ACTH禁忌の症状にも好適
1cc中酢酸プレドニソロン25mg含有 5cc

内服にドニソロン錠
5mg 10入 30入 100入

三共株式会社

